

令和3年度第2回仙北市総合教育会議 会議録

開催日時 令和3年9月10日(金) 午後2時00分
開催場所 仙北市役所角館庁舎 2階 201・202会議室
出席者

(構成員)

仙北市長	門脇光浩
仙北市教育委員会教育長	須田喬
仙北市教育委員会教育長職務代理者	坂本佐穂
仙北市教育委員会委員	橋本勲
仙北市教育委員会委員	細川伸也
仙北市教育委員会委員	田口桂一郎

(市長部局)

仙北市副市長	倉橋典夫
総務部長	大山隆誠
総務課長	藤村幸子
総務課主事	佐々木明日香

(教育委員会)

教育部長	藤原真栄
教育次長兼学校教育課長	鈴木徹
北浦教育文化研究所長	伊藤昭光
教育総務課長	湯澤満

案 件

- (1) 持続可能な学校教育を目指して

大山総務部長 ただいまから、令和3年度第2回仙北市総合教育会議を開催いたします。

はじめに、会議の主催者であります、門脇市長からごあいさつをお願いいたします。

門脇市長 ご苦勞様でございます。よろしく願い申し上げます。

今年度に入って、須田喬教育長をお迎えして、田口桂一郎委員をお迎えして、スタートして半年でありますけれども、その間、コロナ対策に明けて暮れたというのが教育委員会・委員の皆様のお正直なお気持ちではないかという思いもあります。教育委員会事務局も含め、判断や対応をいただいたことに心より感謝申し上げます。本当にありがとうございます。

今も色々動いていまして、市内では8月に入ってから感染者が出て、8月いっぱいでおおよそ50人の感染者が発症したというような推測をしております。その中であって、皆様方は学校の運営、学習の機会の維持に責任を持って対応していただいております。しかしながら、学校でも児童や生徒の感染者が出るという事案がありまして、それに対する休校対策や給食の停止等で大変ご難儀をさせていただきました。市のコロナ対策本部と連携して教育委員会の動きをしっかりと私共もサポートして参りますので、この後もよろしく願い申し上げたいと思います。

今日は、教育長からそういうあれこれもあるかもしれませんが、また、先の8・9月議会では橋本勲委員に再任をいただいてこの場においてですけれども、よろしく願い申し上げたいと思います。その議会の議論の中で学校再編・再配置について様々な意見交換を行いました。公共施設等の在り方全体についての考え方もそうでありますけれども、私はあと2ヶ月弱くらいで退任する身なので、その後の話をするのは非常に様々複雑な思いを持っているのですけれども、仙北市の公共施設等総合管理計画というのが設定されておりまして、340程度の施設

の面積が240,000平方メートルくらいあるのですけれども、その35%を削減させて、そして未来の仙北市の様々な財源の確保もしながら、人件費とかを削減させていって、35%を削減しないとなかなか維持できない、仙北市はそういう状況であります。35%を削減させる手法というのは色々あります。それを全く廃止するとか、地域に還元するとか、誰かに貸し出しするとか。そういう施設がいくつかあるというような話をして、個別計画というのを作成させていただきました。その中に学校施設の在り方に対して当然あるわけでありまして、特にすぐにピンとくるように、学校は大きな床面積もありますし、グラウンドを持っているところもあって、実は総合計画の大きな要因でもあります。しかし、それはそれとしても、今回の議会では、その学校の在り方に対して、これまでいろいろな議論をしてきたわけでありまして、これは熊谷教育長の時代からしていただいていたわけですが、再配置というものとそれから学校のその後の在り方みたいなものをしっかりと協議をしていくという、そのスタートを早くしていかなければいけないというような思いであります。学校施設の長寿命化というのは、長寿命化をどのような形でしていくのかという在り方、それが学校の適正配置に大きく関係してくるのだと、別物ではないのだというような議論を更に1歩も2歩も進めていかなければならない状況であると考えています。

要因はいくつかあるわけですが、財政難ももちろんありますけれども、教育の現場で財政面の話をするのではなくて、何よりも重要なことは今、令和3年度で子どもたちの数が例えば小学校は約900人、中学校は約600人の子どもたちがいる現在がありますけれども、これが20数年すると半減していく事実があるということです。この半減していく子どもたちにも、しっかりと教育を提供していくのだという覚悟で、私たちが今から準備しなければいけないことは何なのかということ、是非、議論いただきたいというような思いであります。

そのうち例えば5年間を目途にして、優先度1群といわれる学校がありますよね。生保内小学校とか神代中学校、西明寺中学校とか。その1群の小・中学校をどうしていくかという議論はもちろん必要ですし、地域にどんな学校を残していくのかという議論も必要です。そこには、子どもたちの数をしっかりと見なければならぬ実態、そしてこれを仮に5年間で成し遂げるとするとですよ、相当な金額がかかってきて40数億かかるという話や年間で9億円以上かかるという話もありますけれども、その財政論はともかく、どういう学校にしていくのだということをもまずやっぱり教育委員会は私たちと一緒に議論していくべきだという思いであります。

この後、教育長からお話があると思いますけれども、そういうスタートを切るという覚悟で皆様方と議論いただければありがたいと思います。

地域の内容、実態を明らかに見ていかなければいけないとも思いますので、これは地域と協働協定みたいなやりとりがずっと進められなければいけないと思っております。

どうかよろしくお願い申し上げたいと思います。長くなってしまいました。

大山総務部長 続きまして、須田教育長からごあいさつをお願いいたします。

須田教育長 本日、門脇市長、倉橋副市長、大山総務部長、教育委員会の委員の皆様に参加を下に、今年度2回目の仙北市総合教育会議を開催出来ましたことに感謝申し上げます。

この後、教育委員会事務局から本日の協議案件である持続可能な学校教育を目指しての方向性について提案をさせていただきます。皆様からは、是非忌憚のないご意見を伺いたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

協議に入る前に私からコロナ感染に関わる3点を報告させ

ていただきたいと思います。

まず1点目が給食センターの再開についてです。9月8日に給食センター職員の2回目の検査結果が判明し、全員陰性であることが証明されました。昨日には、コロナ感染の専門の業者による消毒が行われております。この土日を使って通常の消毒が行われまして、月曜日から給食の再開の予定であります。保護者には昨日一斉メールでお知らせし、本日教育委員会から学校を通してお詫びと再開のお知らせが家庭に届く予定であります。

2点目は、月曜日の臨時の教育委員会で委員の皆様からご指摘のあった保護者への情報の提供についてです。子どものプライバシーの保護と学校の説明責任の視点から本当に悩んでおりますが、今回の生保内中学校や角館小学校の休校や学年閉鎖からいろいろな課題が見えてきました。今回の事案で見えた課題、例えば、濃厚接触者になった場合には保健所からの指示で2週間自宅待機となると、そのことについては陰性になったとしてもその状態が続くということが、保護者で分からない方がたくさんいました。このように、教育委員会では当たり前だった内容も家庭においては分からないといったことがたくさんありましたので、いろいろな事案について前もってこうなればこうなる説明をする必要があるということで、その通知についても出す予定であります。

3点目が1人1台所有しているタブレットの活用についてです。現在、濃厚接触者として自宅で待機している生徒に試験的にタブレットによる授業を行っております。質問を受け付け、双方向からの授業を行っておりますけれども大変好評であります。また、生保内中学校の1年生にもタブレットを配布し、タブレットが使えない家庭には教育委員会で用意しましたルーターを貸し出してしております。あくまでも、実験的な試行ではありますが、生徒の健康観察等、非常に有益な方法であることが判明いたしました。今後、早急に全ての学校に持ち帰

らせて、使えるかどうかの調査を実施したいと思います。

さて、本日の議題である「持続可能な学校教育を目指して」についてですが、議会でも答弁させていただいておりますけれども、児童・生徒の減少や校舎の劣化を考えた場合、小・中学校の統合や再編は避けることが出来ない課題と考えています。実際に先日、神代中学校で水道管が故障しまして、飲み水の確保とトイレが使えないということで、学校が半日休校となりました。幸い、業者の早急な対応により、次の日からは復旧いたしました。このようなことは今後築年数が40年以上経っている学校においても同様な事案が生じることが予想されます。平成28年度に田口委員も参加した仙北市学校適正配置研究検討委員会においては、大規模校、小規模校それぞれが特色を活かした素晴らしい実践が行われており、出来るだけ統合は避けた方が良いというのが委員の総意でありました。しかしながら、それにも限界があり、どうしようもなくなり、悲鳴が上がってから学校統合を考えるのでは遅いという意見もありました。どうしても検討せざるを得ない状況が生じてくるだろうから、その検討する時期やタイミングをどのようにするか議論がありまして、そこで出されたのが、この後鈴木次長が説明する内容であります。

その委員会では、適切な学級数であるとか児童・生徒数とか通学距離、そして小規模校のメリット・デメリットが話し合いの論点ではありましたが、学校の長寿命化の視点では話し合いがなされていませんでした。6年前と比べて、先ほど市長からもありましたけれども、この2年の出生数の減少は予期しないものであります。そこで、もう一度総合教育会議や仙北市学校適正配置研究検討会で様々な視点から統廃合や丁寧な議論を行う必要があると判断いたしました。当然、教育委員会や市が行ってきた、住民や保護者の意向を最大限に尊重していくという姿勢は変わっておりません。詳細については、この後、鈴木次長からご説明させていただきますけれども、先ほどお話し

しましたようになんとか皆様から忌憚のないご意見を伺いた
いと思います。長くなりました。

大山総務部長 ありがとうございました。

それでは早速、協議案件に入ります。本日の案件は「持続可
能な学校教育を目指して」でございます。

ここからの進行は、門脇市長お願いいたします。

門脇市長 はい。ここからは私が進行をさせていただきますのでよろし
くお願い申し上げます。

今回の議事録の署名員は、教育長、それから田口桂一郎委員
のお二人にお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

須田教育長 はい。

田口教育委員 はい。

門脇市長 はい、ありがとうございます。議事録が完成した後に、教育
委員会を通して署名をお願いする事になりますので、どうかよ
ろしくお願いしたいと思います。

では、協議案件に早速入ります。協議案件は、先ほどお話し
があったとおり「持続可能な学校教育を目指して」であります。
先に、事務局の方からお話を伺って、それに対して各委員の皆
様からもしくは執行部のほうからお話をお聞きしながら意見
交換をしていくような形で進めさせていただきたいと思いま
す。よろしく申し上げます。

鈴木教育次長 はい。教育次長の鈴木です。よろしくお願いいたします。

私からは、4点、1点目は平成28年度に検討された学校適
正配置について、2点目は今後の児童生徒数の推移について、
3点目は長寿命化計画について、4点目は今後について、説明

いたします。

さて、1点目の平成28年度に検討された学校適正配置についてですが、資料1ページをご覧ください。平成28年度、市民の代表12名で構成された「学校適正配置研究検討委員会」からの提言書の概要です。仙北市の現状、学校と地域の関わり等を考え、統合の検討に入るべき状況を下にある3つといたしました。

2ページをご覧ください。こちらは、平成28年7月にその当時の小学校6年生・中学校3年生全員、小・中学校の保護者全員、保護者以外の18歳以上の抽出された市民に実施した結果です。4の学校の統合について見ると、小学校では「統合する必要がある」「状況によっては統合する必要がある」を合わせると50%を超えています。中学校では、約40%となっています。

2点目の今後の児童生徒数の推移について説明いたします。3ページをご覧ください。こちらは、令和3年度の1歳児から6歳児が生まれたときの人数です。生まれたときは、この人数でしたが、転入・転出がありますので、若干の変動はあるため、参考資料としてご覧ください。注目いただく点は、2歳児が市内総計で75名、1歳児が80名というところです。6歳児と比べると60名から70名ほどの減少となっています。

4ページをご覧ください。こちらは、長寿命化計画でシミュレーションした児童生徒数の推移です。2030年からは、将来推計でありコンピュータがたたき出した数字ですが、2030年は小学校で728名とされています。ところが、隣の2027年を見ると、こちらは先ほど説明した3ページの出生数を合計した人数で、ある程度現実的な数字です。比べると2027年ですでに小学校合計632名となっており、減少スピードを緩やかに設定した2030年よりも100名近く減少しています。このことから少子化は加速度的に進んでおります。また、2027年には西明寺小で、2045年には生保内小で

複式学級が発生いたします。このような状況になることが読み取れます。

3点目の長寿命化計画について説明いたします。5ページをご覧ください。これは令和2年度に策定した学校長寿命化計画の概要です。右側の表を見ますと、総合劣化度と施設重要度により施設別の優先順位を付け、優先度1から6まで提示しました。その下の今後5年間整備費シミュレーションを見ると、上の優先度1から長寿命化を整備していき、また老朽化している施設を順次大規模改修をしていく、さらに維持修繕費や光熱水費・委託費等を含めると5年間で47億、1年平均9億かかる計算となります。現在、エアコン等が入り快適な生活になっていますが、屋根や屋外、外壁等は劣化が見られ、修理を行っているのが現状です。6ページからは、生保内小学校と神代中学校の劣化状況です。生保内小学校では、屋根や外壁の他に普通教室にもひび割れが見られます。神代中学校でもひび割れが見られます。理科室の給水管の配管は、教室の中を通っています。トイレは和式ですが、洋式用のポータブルも用意しております。ただし、通路が狭く、車いすが入っていけないことが課題となっています。

最後、今後についてですが、児童・生徒の減少や校舎の劣化を考えると、小・中学校の統合・再編等について丁寧な議論をしていく時期になっています。ただし、今まで教育委員会や市が行ってきた、住民や保護者の意向は最大限に尊重していくという姿勢は変わっておりません。これから市内の小・中学校の学校数や位置、校区変更等も含め市当局とまちの将来像を含め、5年後を目途にその方向性を市民に提示したいと考えます。どうかよろしく申し上げます。

門脇市長

はい。ありがとうございます。今、鈴木次長からお話いただき、現状について同じ認識で頭揃えをさせていただいたというような思いがあります。これまで昨年度まではできる限り地

域の学校を守っていくような考え方で委員の皆様にも色々なご不便をおかけしているような現状がありましたし、もちろん方向性付けに対して間違っているわけではないということは今でも思っておりますけれども、想像していたよりも少子化が加速しているという現状を理解しなければいけない、その現状に対して、対策を講じるタイムラグが無いような形で協議を始めるんだという思いに至ってきたというところが重要ではないかと思っております。

統合、再編について協議をどんな形でスタートするかということも含めて委員の皆様とどういう風に考えられるかということから話を始めていければいいなと思います。

それから、先ほどのコロナの話もありますので、どうかお聞きしたいことや意見交換して欲しいところも幅広くお話しただいて結構でございます。

須田教育長

ちょっといいでしょうか。先ほどの話に少し補足させていただくと、委員の方が今一番心配しているのは、神代中学校って安心安全なのかという点だと思うのですが、校舎そのものは耐震が入っておりますので崩れるといったことはないです。ただ、劣化が激しいために快適な環境かといわれると、様々な修理をしていかなければ厳しいということをご理解いただきたいと思います。安全・安心という面は大丈夫です。

門脇市長

はい。ありがとうございます。では、橋本委員から順にお話を伺いたいと思います。

橋本委員

はい、では考えてきたこととお話しさせていただきたいと思います。学校教育を進めるうえで、整備しておかなければならないことは様々あると思いますけれども、児童・生徒が快適に学ぶための環境を整えることが大切だと思います。その中には、先ほどお話しがあったように安全で安心して学ぶことの出

来る快適な校舎の整備であったり、必要な資材が整えられているというハードやソフト面の充実も欠かせないと思います。更に、児童・生徒がともに学び、活動するために必要なある一定数の集団、一定数の規模の仲間がいるということも必要ではないかと思います。今、鈴木次長からもお話があったように仙北市の児童・生徒数の推移を見ますと、2021年度と2045年度を比較すると800人減るとい実情があるということで、今後、一定数の集団で学ぶということが難しくなってくるのではないかと思います。

それから、昨年度策定いたしました仙北市学校施設長寿命化計画では、仙北市内の学校で4校、3分の1以上に当たりますけれども、これらが築年数40年ということで、早い時期に改修工事を検討する必要があるとされています。ただ、児童・生徒数が今後も減っていく中で現在の校舎をそれぞれ単体で改修していくことが適切な改修の仕方であるのかどうか十分検討しなければならないと思います。現在の児童・生徒数をみれば、仙北市全体としての学校の適正配置をしなければならない時期に差し掛かっているのではないかと思います。

その検討の際ですけれども、通学時間など児童・生徒への負担が想定されますので、小規模校が存続することは出来ないのか、ある一定の期間、様々な可能性を探っていただきたいと思っています。例えば、教科によっては、2校同じ授業をオンラインで行い定期的に生徒たちが同じ教室で学ぶなど、そういったことができれば、一定規模の仲間との交流も生まれますので小規模校のデメリットが少しでも軽減できるのではないかと考えましたので、どうかこのあたりも考えて検討していただければと思います。以上です。

門脇市長

はい。ありがとうございます。まずは皆様方からご意見をいただいてから、議論を深めていきたいと思っています。それでは、細川委員お願いします。

細川委員

はい。子どもの出生の資料を確認しまして、本当に例年減少しているということが数字に現れていて非常にびっくりしています。校舎も色々、長寿命化計画で建て替えていかなければならない数も増えてきているのですけれども、校舎の修繕等を最優先していただいて、これから就学する子どもたちのために少しでも良い学校で学ばせてあげられればと思いました。

門脇市長

はい、ありがとうございます。では田口委員、お願いします。

田口委員

はい。平成28年度の適正配置に関する提言書で具体的な対応を早くという説明がありましたけれども、既に状況に入っている対象校というのは小学校2校、中学校1校あるわけですね。何かしらアクションを平成28年度以降しているかと思えますけれども、その状況について確認したいのですが。それ以降のこれまでの取り組みや住民との協議の状況について、ちょっと教えていただきたいです。

鈴木次長

はい。28年度の提言を受けまして、まず西木地区の方で検討をしております。特に桧木内地区の方にも説明いたしまして、いま継続審議となっております。それから中川小学校も対象になりまして、角館小学校と統合になりました。そして、白岩小学校につきましては、今年度これから検討のスタートラインに立つという状態であります。

田口委員

はい。このときにかなり煮詰まった議論がされていて、最後に委員長名でありますけれども、このことに私は尽きると思っています。このことを十分に踏まえながら、よく議論して地域の納得を得ながら統廃合の準備を進めていくと。

いずれ、人数を見ますと、将来的にはやはりなんとか進めなければいけない状況というのは確実だと思いますので、そこに

地域の方々・保護者の方々の納得が得られるかというのが重要なのではないかと思います。

先ほど橋本委員もおっしゃいましたように、やはり、子どもたちが快適で安全でそして楽しく学べる環境を維持することは最低限の務めだと思いますけれども、どのような状態が安全で楽しく学べる環境であるかといったことを住民や保護者の方々と十分理解して、理解を得られるような状況で、そうなればどういう形で統廃合して、どこにどういう学校を創っていくかという議論が進められていくのではないかと思います。

やはり財政面の厳しさも伝わってきますし、それも重要な案件であることはもちろんですけれども、でも現実に子どもたちは学びの中断をすることは出来ないし、学びは継続して成長していくわけですし、一生に一度の学年なわけです。ですから、その学年での学びは最大限保証してあげなければいけないというのが私たちの務めではないかと思います。私も、将来的な児童数の減少についての現実というのが1年1年変わってくるわけですけれども、久しぶりに拝見しまして、当初の予想よりはるかに厳しく減少傾向が加速している印象を受けましたので、また学校の整備の状況、これからどれくらいのお金がかかっていくのかといった実際の金額も含めて住民と十分に情報を提供しながら進めていく段階にきたのかなという印象を受けております。以上です。

門脇市長

はい。ありがとうございます。では、坂本職務代理者お願いします。

坂本教育長
職務代理者

はい。小・中学校の児童・生徒数の推移を見て本当に驚いております。コンピュータからたたき出した予想人数よりも、実際の現実の方が少ないという、この状況をなんとかしなければならぬということ、それから、この減少を止められないとすれば、それも我々がどう今後取り組んでいくかということは今

まで以上に真剣に考えなければいけない時期に来ているのだなどこの数字を見て、感じました。

統廃合については慎重に進めていく必要があるとは思いますが、昨年度の中川小学校が角館小学校と統合した件で、中川小学校の児童は角館小学校で健やかに成長しているという声も聞こえてきますので、小規模校の良さも理解しつつ、中川小学校とともに学ぶ、活動する大切さも必要なのではないかと感じております。

また、実際のところの理由は分かりませんが、白岩小学校に入学を予定のお子さんも角館小学校に入学したいという声も聞きます。どんな理由かは分かりませんが、そういったことも視野の中に入れて検討していかなければならないと、強く思いました。

校舎の写真を見せてもらいまして、やはりこれも安全・安心であると教育長から説明もありましたけれども、きれいな学校というのは子どもたちにとって非常に重要な要素ではないかと思えます。そして、橋本委員からもありました、単体での改修で本当に良いのか考えなければいけません。それぞれの校舎をそれぞれ費用をかけて改修するのか、あるいは大きく動くのかということもこれから検討する必要があるのではないかと思います。

コロナに関してですけれども、タブレットを使ってのオンラインの授業を今、試験的にやっている生徒さんもいるようですので、これがうまく学校と家庭とで機能できているのであれば是非ともそれを使ってせっかくのタブレットですから、最大限の活用をしていただきたいと思います。本当に今こそ使うときなのではないでしょうか、そう思いました。以上です。

門脇市長

ありがとうございます。教育長、ご発言をお願いします。

須田教育長

本当に4月から私が悩んでいるのは、統合の問題とコロナの

問題ということでありまして、今日、事務局の方から自分も腹をくくる意味で、5年後にはある程度の方向性を示したいというような発言をいたしましたけれど、その辺の期間について皆様からご意見を伺いたいと思います。

長寿命化は5年後には計画を出さなければならないわけですが、5年である程度の方向性を出すと。その為に、今日の話し合いの中でその時期がきたのだろうということは伺えましたので、来年あたりにアンケートをとりながら、住民の意見を聞きながらというのを考えております。議会でも議員の皆様も西明寺小学校が数年後に複式になることを初めて私どもも話しましたし、20年後には、生保内小学校が、神代小学校や西明寺小学校よりも子どもの数が減って複式になるという話もしましたが、その旨、非常に驚いておりました。市長も藤原教育部長もこの数字はスピードこそ差は出てくるかもしれないが、だいたい合っていることが統計上には出ているようです。ですから、委員の皆様から、5年の長さはどうか意見をお聞きしたいです。

門脇市長

今、須田教育長から5年の間に様々な方向付けをしたいといった話がありました。例えば5年後にこういう形になりたいという話を仮にした場合、先ほどから議論があるように地域の皆様方にそのイメージをお伝えし理解していただくスタートが切れていないと5年後は来ないわけです。5年後にあるべき姿というのは、実態としてはここ数年で構築させていただくと、それを持って3年4年、地域の方々と10回100回にわたる様々な協議をして、初めてそのイメージが地域の人たちのものになっていくという作業が進むものと思います。そういう意味合いも込めて、皆様方のスタートを切ることに對しての思いを少しまたお伺いしたいと思いますけれども、1つ2つ条件の変化もありまして、私も須田教育長の意見に異論はありませんけれども、首長が2ヶ月あまりで変わります。なので、この議論

はもう一度申し訳ないのですけれども、新たなリーダーをお迎えした後にまた議論していただきたい、新たなリーダーの方針・方向付けに、皆様方に耳を傾けていただきたいことが1つと。

それから、少子化の傾向は私も藤原教育部長もそうなのですが、この手の人口減少の推移はだいたい当たるわけでありまして、実は統計学上外れないことになっています。そうすると、子どもたちの数だけが減るわけではなくて学校を支える学校と一緒に教育を提供していこうとしている地域の人口も減るということです。そして私たちの推計では、2040年には今2万5千人の人口が1万7千人を切るとみているわけです。そうすると地域の地域力といいますか、学校に及ぼす学習に協力する力とかそういうものを今の前提で話をすると、もしかするとちょっと大変になるかもしれません。要件が2つ3つ、その年を迎えるときに変わっていくことの想定をしながら、また議論いただきたいというような思いもあります。

そうすれば、先ほど教育長から5年を目途にというお話がありましたけれども、どんなお気持ちでいるか伺いたいと思います。

橋本委員

私はそれで良いと思います。新しい市長が10月末に決まるとは思いますけれども、こういう実情を新市長に説明をして、教育委員会としてこのような方向で学校の適正配置について住民の意見を聞きながら進めたいという説明をしていただければと良いのではないかと思います。

門脇市長

はい、ありがとうございます。細川委員お願いします。

細川委員

私も5年で良いと思います。5年でなくても来年でも人数は減ると思いますので、それに合わせた話し合いをしていかなければならないと思います。よろしくお願いします。

門脇市長 はい、ありがとうございます。田口委員お願いします。

田口委員 先ほど教育長が言った5年は、5年を目途にある程度の方向性をという市長のお話でしたけれども、どこまでの方向性を5年後に出すのかを伺いたいです。例えば文科省では、最低複式学級が何人何十人という目途を示した上で適正規模を出していると思うのですけれども、それに基づいて小・中学校の規模を考えると仙北市では小学校何校、中学校何校、そして最終的に5年後にはそういう学校数を目指したいというところまでを、5年後のゴールに。そこら辺の目途というのを、5年後どこをゴールとするのか明確にさせていただきたいです。

須田教育長 小学校と中学校、学校数かなと思っています。出来れば場所までいければいいと思っていますが、自信はないです。新市長の意向もあるでしょうけれども。

是非、アンケートに入れなければいけないのは、出生数とか今後何年後に複式学級になるというのは、地域の方々は分かっていないことなので、それを提示して、そして長寿命化計画も分からないので、どのくらいお金がかかるのとか分からないと思うので、そういった面も提示して集約したいと考えています。

ただ、先ほどから言いますように、新しい市長が5年後には数だけではなく場所も決めると言えば、皆様とまた協議していかなければいけないと思っています。

田口委員 学校数あるいは位置までは難しいようだけれども、そこまで5年後にある程度の結論を出して、住民の理解を得るということで良いのですよね。

そうならば、やはり議論は早急に進めなければいけないし、

既に28年出された提言書の中に、対象となっている学校が現在で3校あるということだったので、中川小学校は統合になりましたのでそれ以外の小学校2校、中学校1校につきましては対象になっていると思います。

先ほど次長から継続中だというお話がありましたけれども実質、現在、継続的に説明しているかといわれればそうではないのではないかと思います。協議が現在進行形で進められている状況ではないと思いますので、私はすぐにでもこのような状況だけは、地域に説明しておく必要があるのではないかと思います。提言書に従いながら、丁寧に説明を繰り返して、そしてまだ最終的なモデルについては出せないけれども、こういった状況によって将来こうなる可能性がありますというのはスタートしなければならない状況であると思います。来年とか再来年とかからではなくて、5年後に、先ほど教育長が言った学校数を指すのであれば、もうそうした候補に挙がっている学校については、あるいは現在審議を継続中の地域には、現時点で分かっている状況についてその都度業務を進めていく必要があります、早いスタートを切る必要があるのではないかと思います。

門脇市長

早いスタートを切ることは重要なポイントだと思います。では、坂本職務代理者お願いします。

坂本教育長
職務代理者

はい。5年後を目途にという意見に反対ではないのですが、やはり私も早急な取り組みが必要なのではないかと懸念があります。というのは、実際すでに学区としては小規模校に入学すべきはずの児童が他の小学校への入学を希望したということが起きているわけで、今後5年間で更に増えていく可能性もあると思うんです。

出生数一覧表を見ますと、1人とか2人とかそういう数字が見えますので、やはり保護者としては1人の学年にしたくない

とか、1人の学年を望む方もいるかもしれませんが、それぞれの考えがあると思いますので、学区を変えたいという意見が出てこないとも限らないと思います。ですから、そういった現状を踏まえて早め早めの取り組みが必要だと思います。

門脇市長

はい、早めの対応が必要だということですね。5年の間に様々な対応が必要だと思います。5年後の姿を描くという作業を始める作業は、少なくとも5年というのはそのものだけでも、その間、1年目2年目3年目4年目と各学校の維持が大変になってくるところもいっぱいあると思います。大規模改修とはいわないけれども、小規模で修繕していきながら5年後に求める姿に一気に持って行くのか、それとも今ある学校を少しずつイノベーションしていきながら、もしくは大規模改修ということも考えながら進めていく過程の帰着するところがこういう形なのだとか、いろんな描き方があるのだと思います。

委員の方々や教育長からお話をお聞きしましたけれども、今度は行政側からも少しお話を一緒にしていきたいと思います。副市長、総務部長から意見を伺い、議論を深めていきたいと思いますので発言をお願いします。

倉橋副市長

先ほどいろいろなご意見を伺いましたが、私としては、出生数が100人を切った平成30年度にすごく危機感があり、その後にはもっと少なくなっていて、最近では全体で80人を切っており、このレベルですと小学校が1つと中学校が1つで足りるくらいの数字だと認識しております。

しかし、仙北市の現状を見ますと地形的な面で小学校が1つと中学校が1つではいけないだろうと思います。それではどのような解決策があるのかという議論を早急に進めていかなければならないと思っております。これまでは、適正配置の対象となる地域だけの意見交換をしながら進めてきたわけ

ですけれども、もはやそういうことではなくて、すべての学校・地域が対象となっているという認識の元に進めていくべきだと思います。

また、教育長から5年を目途にという話については、なかなか結論を出すのが難しいテーマでございまして今年中になんとかなるような話ではないとは思いますが、議論は進めていかなければいけないと思っております。

私の個人的な考えとしては、仙北市では小・中学校がある程度同じ位置に建っていることがほとんどですので、その小・中学校単位、生保内・田沢地区、神代地区、西明寺地区、桧木内地区、白岩地区も含めて角館地区で地域懇談会といいますか、名称はともかくとして保護者ばかりではなくて地域住民も含めた幅広い意見交換が出来る場を持つべきではないかと思っております。

来年から、白岩小学校は別ですけれども、ほかの地区ではおおよそ一般市民の方はすぐ来年統合するという考えは持っていないと思っておりますので、今日のような何十年後かには危機的な状況になることはご理解いただいた上で、議論をしていかなければならないと思っております。

議論の仕方も非常に難しいだろうと思っております。仙北市1本で、あるいは旧町村単位で議論はまとまらないと思っております。まずは、身近な小・中学校がある地域で議論を進めた方がよりリスクがない議論が出来るのではないかと私は思っております。その上で統合するのか、他の地域を含めて移譲になるのか、あるいは小・中学校が一緒になった施設にはいるのか、いろんな選択肢があると思っております。ただ、それが50年後も同じかといわれればそうまたそうにはならないし、ドラスティックな再編になる場面も必ず来ると思っておりますので、そうした道筋を5年を目途に方向性を出していただければ大変良いのかなと思っております。

も、教育長と雑談で話してきたことは、やはり通学距離を考えるとちょっとそうはいかないなど。いろいろコンプリートして、5年後にはスケッチを完成させておきたい。後は色づけをするだけ、という形に持って行ければいいのかなと思います。スケッチというのは、学校数を決めて、どうしても小規模校で合併が出来ないところは、何年後には合併しますということで受け皿を作ることです。こういったところまで持って行ければ、早急な対応で、具体的に現実的なものになるのではないかと思います。

門脇市長 はい。では、鈴木次長お願いします。

鈴木教育次長 はい。私は現在校舎管理の業務を請け負ってしまして、本当にいろいろな要望が来ます。実際に現場に行って、現場で見て、本当に頑張ってくれていますが、やはりなかなか厳しい面もあります。

 そのようなところで、長寿命化のこともありますが、生徒数も含めて本気になって考えなければならぬと思います。

 もう1つは、地域の方や保護者の方たちの意見もしっかり聞いていかなければならぬと感じました。

門脇市長 はい。伊藤所長、何かご発言があればお願いします。

伊藤北浦教育文化研究所長 はい。授業をする立場として、大規模校と小規模校のことについて少しお話をさせてください。私は大規模校に3年勤めておりました。40人学級でした。小規模校には、6年間複式学級も経験させていただいております。

 大規模校と小規模校には、それぞれメリット・デメリットがあります。そういったところと地域の事情、それから学校の状況を視野に入れないと難しい判断になるのではないかと感じております。

そういった点をみんなで議論しながら、いい方向へ進めていければと思います。

門脇市長 はい。湯澤教育総務課長お願いします。

湯澤教育総務課長 はい。私は、今、子どもが角館小学校と角館中学校におりますけれども、保護者の立場として考えたことがありました。

中川小学校の子どもたちが統合になりまして2年目になっておりますけれども、統合が決まった段階で統合について考えたときに、保護者の立場としてはほかの地域の新しい友達と更に仲間が増えて楽しく、色々な刺激を受けながら勉強が出来るのだなということで非常に楽しみにしていた気持ちと、統合する側の中川小学校の方の気持ちを考えた際には、地域の思いも大切にしながら、統合しても一緒に頑張っていければと思ったことを今思い出したところです。

P T Aの立場からいいますと、P T Aはいろいろな活動があるわけですけれども、活動していると各P T Aでいろいろな課題がありまして、中川のこちらのP T Aにはない良さがあるのかなとかいろいろな意見交換をしたいとか、今度は意見交換が出来るとか、そんな思いで一緒に統合させていただいた記憶があります。

ということで、子ども同士も地域同士もですけれども、P T Aといえますか、保護者同士の交流といえますか、そういった部分でも仙北市の子どもたちのどういう学びが良いのかP T Aも一緒に考えていければ、より全体で考えていくことが出来るのではないかと思っているところです。

門脇市長 ありがとうございます。次に藤村課長お願いします。

藤村総務課長 これから地域の方にも説明に伺うという話だったと思いますが、本日、資料を拝見していて、例えば生保内小学校などの

劣化状況の調査写真を見て、なかなか地域の人って学校の中に入る機会が少ないので、目で現状を見ていただくというか、多くの資料は作成されてはいらっしゃるけれども、地域の方々に具体的なこういった資料もいいなと思い、本日拝見しておりました。

また、子どもたちが統合などで遠距離通学になると、先ほど坂本代理者がおっしゃいましたタブレットの活用なども、本当に将来的には当たり前のことになるのではないかと思いつつ、お聞きしました。

門脇市長 ありがとうございます。佐々木さん、お願いします。

佐々木主事 本日、お話を聞いていて感じたことは、市民への周知はもちろん重要ですが、一番不安を感じているのは子どもたち自身なのではないかということです。別の学校に通うことや新しい友達と一緒にすることに子どもたちは不安を感じると思います。ですから、今後、統合が決まってからの話になるとは思いますが、子どもたちの心のケアについても視野に入れていかなければならないと思いました。

門脇市長 はい。ありがとうございます。皆様からお話しいただきましたけれども、教育長からもご発言いただきたいと思います。

須田教育長 はい。ありがとうございます。

今日皆様からいただきましたご意見を参考にしながら、次回にはシミュレーションといえますか策定に当たっての進行表みたいなものも提示できればいいなと思っております。

市当局にお願いが2つほどありまして、1つは先ほど田口委員からの話の中に、今色々なところで子どもたちが色々な状況にあるけれど学年は一生に一度きりであるので、なんとかいい環境で学ばせて欲しいという話がありました。今年嬉しかった

のが、統合の話がある桜木内小学校に1億円弱のお金をかけていただき、屋根の修理をさせていただきました。本当に嬉しい限りであります。色々と劣化がある中でも、全県でも最も早く冷房施設を取り入れてくれるなど、本当に子どもたちや学校からは学びが充実していると聞いておりますので、統合するまでもう少しかかるとは思いますけれども、その間のいろんな面での財政的な件について、ご配慮のほどよろしくお願ひしたいというのが1点目です。

2点目については、市長と副市長にもお願ひしてありますけれども、若い方の意見というのが非常にハッとするようなことがありますので、ぜひ今年度中に20代・30代の市役所の若い方たちとの意見交換会をしたいということです。ぜひその際には、職員の皆様にも参加いただければありがたいのですけれども、20年後、30年後には市の幹部になって様々な色々な施設の統合などあると思いますので、そういった会を設けたいなど考えております。以上です。

門脇市長

はい、ありがとうございます。

今、2点目の教育長からご提案のあった市役所の20代・30代の職員の皆様の意見交換の場面を、ぜひ作っていただきたい。私からもお願ひしたいと思っておりますので、総務部で対応をお願ひします。教育委員会とよく連携してください。

それから私からもう1つ、5年の間でイメージを描く作業が始まるということで、早ければ早いほうが良いという話もあるくらいですから着手することにはなるとは思いますけれども、教育委員会では各年度の進捗の更なる細やかな対応の目標、それから効果や反省を来年度振り返ることができるようなシートやフォーマットをきっちりと作っていただきたい。それがその後、市民の方々に対する説明できっと生かされてくるとは思いますので、先を見据えた対応を今からしていただきたいと思っております。

私個人の悩みどころは長寿命化を進めることはもちろんそうなのですけれども、今子どもたちが不便に感じている不自由していることを5年後の長寿命化が行われる事業で解決しようということではないと思います。今不便に感じている子どもたちには、なるべく今解消してあげてをやりながらも5年後のビジョンを描いていくということにならないと、子どもたちに失礼があると思いました。

それから、桧木内中学校・西明寺中学校の事案で、しばらく保護者の方々や子どもたちとも話をさせていただいたときに感じたことの1つは、自分は学校があるかないかということ、特に子どもたちを盾にした議論はしないでくださいという話をずっと地域の方々にしていて、これはものすごく反感を買ったのですけれども、逆に一番受け入れられた意見は少ない人数で一生友達を探す作業よりも、多い人数の中から一生の友達を探すことの方が簡単ではないですかと、この辺については保護者の方々にもそれはそうだなと共感していただいた記憶があります。大規模校というメリットも十分に承知はしているのだけれども、なかなかそれにうんと言えないような地域事情を持っている方々が大多数いらっしゃるのだと。その方々が、分かったと言っていただけのような理由付けをしっかりと提示するのが、この後の事業の進捗には必要ではないかという思いがありました。以上です。

他に何かこの案件に関して話したいことはありませんか。

須田教育長

先ほど、橋本委員の発想が非常に参考になりました。統合するにしても、子どもたちのオンラインの授業について今年委員の皆様にはお話ししたのですけれども、一緒に見てもらいましたね、美術の作品を見てチャットで評価すると。

小規模校であのような使い方をするのは非常に素晴らしいなど。先ほどから出ているタブレットについては、より効果を高めていきたいと考えているところであります。

門脇市長

ほかに補足したい方はいらっしゃいませんか。

無いようでしたら、本日の協議案件は1つでしたので、この件については終えたいと思います。

続いてその他であります。教育委員会から何かありますか。

藤原教育部長

後手に回った部分があるのですけれども、Wi-Fi環境が家庭にないお宅と使っただけ使用料がかかってしまうお宅用に市がルーターを貸し出してやりましょうという話が去年から来ていたのですけれども、買い取りでやってしまうと使わなくても毎月基本料がかかる点がネックになっていました。先ほど教育長からありましたけれども、今回生保内中学校の1年生が実験的に行ったものは、日単位でレンタル出来るものでしたので、非常に安価で出来る商品が出てきていました。緊急時に、例えば休校が決まったときに電話をすると翌日届きます。そういった対応でやらせていただいておりますので、今はリモートホームルーム的なものしかできていませんが、これが軌道に乗れば、本当にリモート授業が現実味を帯びてくるのではないかと考えております。

門脇市長

ちょっといいですか。ルーターっていうのは、Wi-Fiの環境が無いお宅でもそれがあれば、Wi-Fiが効くということですか。何がききたいかというのと、今ホームルーム的なものに使っている先生の顔を見ると安心する子どもたち、友達的笑顔を見ると安心する子どもたちが動画でないとなかなか安心度が高まらないという場面がたぶんあると思いますけれども、Wi-Fiの環境がないとなかなかしっかりと動画が見えないだろうと思うので、そのルーターはWi-Fi環境を実現できるものという考え方でよいのでしょうか。

藤原教育部長

おそらく市長が疑問に思っているのは、それくらいの高速通

信が出来るのかということかと思えます。

まだ5Gには対応していないのですが、現状4Gの状況でZOOMとかテレビ会議などの対応は出来ていますので、重たい高画質の動画を見るとかそういったことでなければ、安心してみる事が出来ます。

門脇市長

すごい時代になったと思っていて、橋本委員や教育長もおっしゃいましたが、何年か前には学校の統合は1つの場所に集まるしか出来ないという議論しかありませんでしたが、1つの場所に集まらなくても勉強ができたり友達と会えたりというのが技術革新としてももう現実にあって、そういった方法を活用すると、こんな活動が出来るのではないかということに驚いたというのが先ほどの教育長のお話ではなかったかと思えました。

技術革新にあった学校の在り方というのをぜひ教育委員では協議していただきたいと思えます。

他に委員の方々も何かありませんか。コロナの関係とかありませんか。

倉橋副市長

せっかくですので、私からコロナの感染症やワクチン接種のことについてご報告します。

冒頭に市長のあいさつでもありましたけれども、仙北市では7月までは1人もコロナ感染者が出ていないということで、全県の市町村で唯一コロナ陽性者が出ない市だった訳ですが、8月に入っていきなり陽性者がでました。

そうした中で、給食センターや市役所でも陽性者が出てしまいました。1人が出るとそのご家族、あるいはその周辺の人たちも保健所で濃厚接触者・接触者に指定されまして、その方々がすべて検査の対象となります。検査対象が多くなると、陽性者が出る可能性が高くなるわけで、毎日心配しておりました。ただ、ようやく濃厚接触者・接触者の検査が終わりまして、現時点で、これまでにコロナ感染した方から陽性者はないと思

っております。

幸いにして、仙北市で感染した方に重傷のかたはおられませんけれども、一部報告を受けた中には味覚障害が残っているとのことです。命に関わることはありませんが、本人たちは非常に苦しい思いをしたと聞いています。これ以上新たな感染者がでないことを祈っておりますけれども、かなり市民の方々もナイーブな状態になっていると思います。情報発信は随時していきたいと思っておりますが、復帰した方や濃厚接触者になった方等に対する差別や中傷は慎んでもらいたいと思います。

今回の8月の状況を見ますと、非常に噂が飛び交っており、それが正しい情報ではなく間違った情報もかなり出回っていたようです。コロナの恐ろしさは病気になることよりも、そういったことに巻き込まれ、精神的な苦痛を強いられるところかと感じました。教育委員の皆様にも、周りの方々に伝えていただければと思います。

ワクチン接種については、おかげさまで順調に進んでおまして、明日で第3クールが終了いたします。9月19日から第4クールが始まり、これをもって集団接種が終了します。ただ、その中でも色々な事情でワクチン接種が出来なかった方もおられると思いますので、その方々のために11月に少数ですが接種の機会を設けております。内容については広報でお知らせしたいと思っております。

それから、16歳以下のワクチン接種がようやく第4クールの中で行えることになりました。初日からかなり予約が入りまして、昨日現在で539名の方が予約しています。小・中学生の予約について、当初は50%くらいかと低く見ておりましたけれども、たまたま小・中学生にも陽性者が出たということで、広く保護者の皆様にも周知されたこともありまして、接種を受けたいという方々が多かったようです。

色々な事情で接種できない方もおられると思いますが、まだ接種していない方がおられましたら、周辺の皆様に接種を勧め

ていただきたいと思います。

門脇市長

はい。ありがとうございます。

では、進行を総務部長にお返ししたいと思います。

大山総務部長

本日は、様々なご意見をいただき、本当にありがとうございます。それではこれもちまして、令和3年度第2回仙北市総合教育会議を終了します。ご参加いただき、ありがとうございました。

(午後4時30分終了)

上記会議録に相違ないことを認め署名する。

仙北市長

仙北市教育委員会教育長

仙北市教育委員会委員